

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

平成20年度病害虫発生予察情報 特殊報第2号

平成20年12月19日
岩手県病害虫防除所

トマトハモグリバエの発生について

1 発生状況

- (1) 平成20年10月に一関市の施設ナスでハモグリバエによる被害が発生し、京都府農業総合研究所に同定を依頼したところ、トマトハモグリバエ(*Liriomyza sativae* Blanchard)であることが確認された。県内初確認である。
- (2) 国内で広く発生が確認され、東北では2003年に山形県と福島県、2004年に宮城県で確認されている。

2 形態と生態

(1) 形態的特徴

- ・ 成虫の体長は2mm前後(写真1)。
- ・ 老熟幼虫は体長3mm前後で、体色は淡黄色。
- ・ 蛹は黄褐色の俵状で長さ1.3~2.3mm(写真2)。
- ・ 成虫の色彩は同属で広食性のナスハモグリバエ等と類似しており、正確な同定には雄成虫交尾器の形態かPCR法による確認が必要である。

(2) 生態

- ・ 成虫は葉中に産卵し、ふ化幼虫は葉肉を食害し、不規則な線状の食害痕を作る(写真3)。
- ・ 老熟幼虫は葉外に脱出し、地表や地中で蛹化する。
- ・ 1世代の発育期間は30℃で13日、25℃で17日、20℃で30日程度である。
- ・ 耐寒性は低く、寒冷地では野外越冬できないと考えられている。

(3) 寄主植物

ウリ科：キュウリ、メロン、カボチャ、シロウリ、スイカ、ヘチマ、マクワウリ、ズッキーニ

マメ科：インゲンマメ、アズキ、ダイズ、ササゲ

ナス科：トマト、ナス、ジャカイモ、トウガラシ、ピーマン、ペチュニア

アブラナ科：ハクサイ、ダイコン、カブ、キャベツ、コマツナ、ブロッコリー、ミズナ、ミブナ

アオイ科：オクラ

キク科：ゴボウ、シュンギク、マリーゴールド、コギク、アスター、キンセンカ、ダリア、ヒヤクニチソウ

宮城県の資料をもとに作成

3 防除対策

- ・ 本種は寄主範囲が広いので、ほ場内及び周辺の雑草を除去し、ほ場衛生に努める。
- ・ ハモグリバエ類の被害の見られる苗は定植しない。
- ・ ハウス栽培では、入り口や開口部にネット(目合い1mm以下)を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- ・ 被害残さは発生源となるため、ほ場外へ持ち出しビニール等で覆い、蒸し込み処分する。
- ・ 密度低減のため、夏季のハウス内の蒸し込みが有効である。
- ・ 冬季に作付けしないハウスではビニールを撤去するなど、越冬場所を作らないようにする。
- ・ 本種は薬剤抵抗性が発達しているため、ハモグリバエ類を対象とした薬剤防除を実施しても被害が目

立つ場合は、最寄りの農業改良普及センターか病虫害防除所に連絡する。

- ・ 薬剤防除ではイソキサチオン乳剤、シロマジン液剤、エマメクチン安息香酸塩乳剤、スピノサド水和剤、ピリダリル水和剤、ミルベメクチン乳剤、カルタップ水溶剤、チオシクラム水和剤の効果が期待できる。
なお、**農薬の使用にあたっては、対象作物に適用のあるものを使用すること。**



写真1 成虫



写真2 蛹



写真3 被害葉

【利用上の注意】

この情報は、平成20年12月3日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。
農薬は使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。

【情報のお問い合わせは病虫害防除所まで】

TEL 0197(68)4427

FAX 0197(68)4316

この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://i-agri.net/agri/>

農薬使用の際には (1)使用基準の遵守 (2)飛散防止 (3)防除実績の記帳 を徹底しましょう。